

福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 10 月 26 日
東京電力株式会社

<1. 原子炉および原子炉格納容器の状況> (10/26 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉圧力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水注入中	炉心スプレイ系：約 2.0 m ³ /h	31.8	107.2 kPa abs	A系： 1.36 vol %
		給水系：約 2.9 m ³ /h			B系： 1.36 vol %
2号機	淡水注入中	炉心スプレイ系：約 4.5 m ³ /h	44.8	4.75 kPa g	A系： 0.05 vol %
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.06 vol %
3号機	淡水注入中	炉心スプレイ系：約 4.5 m ³ /h	44.8	0.21 kPa g	A系： 0.20 vol %
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.19 vol %

* 絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

【1号機】・10/26 9:58 原子炉への注水量の低下が確認されたため、給水系からの注水量を約 2.8m³/hから約 3.0m³/hに調整、炉心スプレイ系からの注水量は約 2.0m³/hで継続。

【2号機】・10/26 9:58 原子炉への注水量の低下が確認されたため、給水系からの注水量を約 1.8m³/hから約 2.0m³/h、炉心スプレイ系からの注水量を約 4.3m³/hから約 4.5m³/hに調整。

【3号機】・10/26 9:58 原子炉への注水量の低下が確認されたため、給水系からの注水量を約 1.8m³/hから約 2.0m³/h、炉心スプレイ系からの注水量を約 4.4m³/hから約 4.5m³/hに調整。

<2. 使用済燃料プールの状況> (10/26 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	停止中	21.5
2号機	循環冷却システム	運転中	21.0
3号機	循環冷却システム	運転中	19.3
4号機	循環冷却システム	運転中	31

* 各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘビドラジンの注入を適宜実施。

※ 冷却システム停止中のため、至近のデータ(10/25 11:00 現在)を記載。

【1号機】・10/25 13:33 使用済燃料プール代替冷却システムにおいて、2次系の循環水に不凍液の添加作業を行うため、同システムを停止(停止時プール水温度:21.0°C)。
 ・10/26 14:12 不凍液の添加作業が終了したため、使用済燃料プールの冷却を再開。運転状態について異常はなく、使用済燃料プール水温度は冷却停止時の約 21.0°C から約 22.5°C まで上昇したが、運転上の制限値 65°C に対して余裕があり、プール水温度の管理に問題はない。

<3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況>

号機	排出元 → 移送先	移送状況
2号機	2号機タービン建屋 → 3号機タービン建屋	10/24 15:44 ~ 移送実施中
3号機	3号機タービン建屋 → 集中廃棄物処理施設 [雜固体廃棄物減容処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	10/26 12:18 ~ 移送実施中
4号機	4号機タービン建屋 → 集中廃棄物処理施設 [雜固体廃棄物減容処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	10/24 16:02 ~ 移送実施中

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (10/26 7:00 時点)

設備	セシウム吸着装置	第二セシウム吸着装置(サリー)	除染装置	淡水化装置(逆浸透膜)	淡水化装置(蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて断続運転	水バランスをみて断続運転

* フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

<5. その他>

- ・H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- ・H24/2/23～ 6号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- ・H24/3/6～ 5号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- ・H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。
- ・H24/10/23～ 1号機サプレッションチャンバ内への窒素ガス連続封入を開始。サプレッションチャンバ内の水素濃度を推定2%程度まで低くするために、連続封入期間は1ヶ月程度を予定。

以上